

# 森泉荘だより

第 4 号  
S. 63. 12. 1

## 屋外昼食会

松橋 照己

九月二十九日、快晴。当日の担当が、施設内放送で「屋外昼食会」行なわれることを、はずんだ声で伝える。しかし、風がある。天気が変わらなければいいが・・・と思いつつ決行。

一〇時三〇分、森泉荘の庭に、シート、テーブル、ラジオ・カセット、輪投げなどを準備。

風が幾分強くなり、雲も出てきた。「終わるまで晴れてくれよ」と思いながら、準備を続ける。

一〇時四〇分、気の早いお

年寄りから外へ出てくる。天気が心配だ。と話す。「大丈夫、大丈夫」と励ましてくれる。

一時、車椅子のお年寄りが、自力で車椅子を操作したり、職員に介助されてやってくる。最後は、ベットのお年寄りだ。まぶしそうに空を見上げながらやってくる。体調のおもわしくない方を除く、約四〇名が参加した。

食事までの間、散歩したり、話をしたり、ゲームをしたり、職員も一緒になって楽しんだ。その間も、雲がどんどん押

し寄せてくる。太陽が見え隠れする。陽が差している間は、ボカボカと心地よいが、隠れると、ひんやりとした風に包まれてしまう。

池の鯉に歓声をあげ、池の上の葡萄棚に眼をやる。実が熟していた。

何房か切り取り、「初物だから」と、少しずつ紫の実を分けて食べる。普段はあまり葡萄を食べない人も、「うめ（おいしい）」と食べる。自分で食べれない人には、寮母や、他の職員が口元でしばって食べてもらう。笑みがこぼれた。

一時三〇分、まちなねた昼食が運ばれてくる。おにぎりに大鍋の芋のこ汁。そしてジューズなどにまじって、すもも酒やマルメロ酒（森泉荘特製！）に舌つづみを打つ。（すもも酒、マルメロ酒の人氣が高かった）日頃あまり食べないAさんが、おかわりをした。「お、うめが（うまいか）」と聞くとAさん、「外で食べば何食ってもうめもんだ」とニヤニヤ笑っている。一二時三〇分、風が強くなり完全に雲におおわれる。屋外昼食会が終わるのを待

ちかねていたかのよう雷雨。口々に「天気よぐもったなあ」の声。その声にまじって「また、外でママ食いて」の声が聞かれた。

体がいうことをきかなくなつてから、外へ出る機会が少なくなつたと言います。できるだけ外での行事を計画したいと思つていきます。

当日の記録から二、三紹介いたします。

☆石川又エさん

「外で食べるとうまいので、いっぱい食べてきた」

☆藤嶋勝三郎さん

「外で食事をやるから」と車椅子で迎えにいくと、すごく喜び、自分で上体を起こしたり、すすんで車椅子に乗ろうとする意気込みが感じられた。

☆山田徳治・篠内マズさん

二人並んでテーブルにつくと、皆から「花嫁と花婿みたいだなあ」と言われると「うふふ」と笑っている。

（生活指導員）

「詩」 私の運命

三浦 イト

長い長い年月を  
痛み続けた私の身体<sup>からだ</sup>  
やせていく 肉体の疲れを おして  
はげしく 立ちあがろうとする意志。

「だが」

時としておとずれる 心地よさは

どうしたことだ

これも みんな

職員方の親切を受けているからである

最近は 有り難くて 毎日毎日感謝の気持ちで  
一杯で居る。

家にいる自分は  
痛みの嵐を どうして過ごしたのか  
今でも思うと

身も心も ちぢまる思いがする

いまさら何と想っても

何にも なれぬ私よ

泣いてどうなる

私は今、

涙の河を渡って 明日は亡びの世界に行く

「いや」

あの人が迎えにくるのを

待っていきたい。

(森吉町出身・八〇歳)

※ 三浦イトさんは三〇代から多発生関節ロイマチ  
スと戦ってきました。病気を感じさせない明るい方  
です。字も大変お上手です。※

◎職員寄稿◎

晩秋に

庄司 郁子

▽くすりりっこ

「おはようございます。」  
と居室の入り口で挨拶をする  
と「おはよう、きたが、きた  
が」と大きい声で挨拶をして  
くれます。薬の大好きな〇〇  
さんが「きたが、きたが」と  
いうのは薬の催促なのです。  
順番がきて〇〇さんに薬を手  
渡すとオブラートの包みを大  
事そうに口の中に入れて番茶  
で上手に飲み込みます。本当  
に薬の好きな人です。他の利  
用者のみなさんも薬が好きで  
上手に飲んでくれたら、私達  
も助かるのになあと思います。

▽アイスノン

◎◎さんは、時々「頭あん  
べ悪くて死ぬぞだ」と訴え  
ます。体温、血圧の検測では  
特に異常がありません。◎◎  
さん専用のアイスノンがいつ

も冷蔵庫の中に入っているの  
です。そのアイスノンをタオ  
ルに包んで枕の上に置くと満  
足そうに休みます。

少し時間を置いて、状態を  
たずねると「枕コしたばよ  
くなつた」と機嫌のよい返事  
が聞かれます。本当に効き目  
のあるアイスノンです。

▽うめがった

カボチャとか小豆あずきを使った  
料理や煮豆等がお膳についた  
時は大多数の利用者が一番先  
に箸をつけます。□□さんも  
例外ではなく、カボチャや小  
豆などが好物のようです。そ  
んな時は「あ、うめがった」  
とお皿の中は奇麗に空になっ  
ています。

食べ物の嗜好がはっきりし  
ている人で副食に箸をつけな  
い時もあります。

「今晚のおかずどうだった」  
と聞くと「なんもうめぐね、  
こんたのだば駄目だ」とはっ  
きり批評します。時々手ごわ  
い料理批評家になります。他  
の利用者のみなさんも、どし  
どし料理批評家になってくだ  
さい。

▽△7日は一点

◇◇さんは私を呼ぶ時その  
日によって呼び方が変わります。  
「今日は何と呼んでくれ  
るのかなア」と楽しみでもあ  
ります。

「XXさん今日二点だ」と  
居室から大きい声で知らせて  
くれます。「よがったこと。  
2点だば、腹の具合もスカッ  
としたべな」「んだ、さっぱ  
りした」という会話が続きま  
す。一点は排便一回のことな  
のです。このようなユニーク  
な表現も◇◇さんならではの  
こと。とてもほほえましくな  
ります。

▽水△分補給

「水分補給の時間です」と  
寮母の声が聞こえます。  
年をとるといふことは体の  
中の水分がどんどん減ってい

き、乾燥していくことだとい  
われます。体の中の水分が不  
足すると、いろんな病気が出  
てきます。血液が濃くなって  
動脈硬化のある血管に血液が  
固まって、脳梗塞や心筋梗塞  
のような病気を起こしやすくな  
ります。また、濃い尿にな  
り膀胱炎をおこしたり、老人  
に多い便秘等、又、急に高い  
熱が出たりします。

老化とともに、口が渴いた  
と感じなくなり脱水症をおこ  
すのです。

風邪をひいても、薬より先  
に水分補給といわれるほどで  
す。

利用者の皆さんにとって、  
水分はとつてもとつても必要  
なものです。寮母が一生懸命  
に水分補給をしてくれていま  
す。「あど、たくさんだ」  
「こんたのだば、飲まれね」  
などと言わずにたくさん飲ん  
でもらいたいのです。

▽面

△△

同室者に面会の人を訪れる  
と「おらさも来る頃だばって  
な」と寂しそうな顔をしてじっ  
と見えています。△△さんには  
家族の面会が多い方ですが、

それでも心待ちしているのがわかり気の毒になります。利用者にとって家族の面会は、どんな良薬より、どんな手厚い介護より効き目が大きいのです。利用者のみなさんが心待ちしている事なのです。

### ▽夕々暮春れ

晩秋の日は足早に暮れて、夕食を知らせる寮母さんのアノウンスが流れる頃は、窓外は真っ暗。食事を終えて薬を待っている○○さんのベットへ行くと「暗くなったんで早く家さ行げば」と<sup>おぼ</sup>勞いの言葉をかけて

老人は、とかく実社会から見離されがちな生き物である、私は思う。  
若い世代の人間と同じよう

くれます。

何気ない言葉のようでも、帰路を心配してくれることを有り難く、心のあたたかさをしみじみと感じさせられます。

本格的な寒さが訪れるこれからは、風邪をひく利用者が多くなります。

厳しい長い冬を無事に過ごすために、バランスのとれた栄養、そして十分な水分の摂取や、室温・湿度に気配りしながら、利用者のみなさんも、そして職員も元気に春を迎えたいものです。

(森泉荘 看護婦)

こ・こ・ろ

## 小田島 美樹

に働けるうちはよい。足腰の痛みを感じるようになり、その痛みを言葉として出してしまふようになると、少しずつ

周りから老人扱いをされるようになる。そして、手足でも動かなくなると家の片隅に追いやられ、下手をすれば老人施設へと……

人は口々に言う。「好き好んで老人施設へ入れたのではない。」と。実際、人それぞれ事情があるから、それをどうのこうのとは言えないし、もしかしたら私も自分の祖母を老人施設へ入れることになるかもしれない。

だけど、どんな時でも忘れてはならないことが二つあると思う。

一つは、手足が不自由になろうと、言葉が言えなくなろうと、寝たきりになろうと、それぞれの父であり母であり人間なのだということ。

もう一つは、どんな老人にだって「心」があるということ。

ある時、ふっと見せた老人の涙。そして涙を流しながらも見せてくれた笑顔……

「忘れられない。」

私にも八〇歳になる祖父がいた。祖父の存在は知っていたものの、なかなか会うことができず、小学四年の夏休み、

初めて一泊二日で祖父のいる函館へ遊びに行った。そしてそれが最初で最後の顔合わせとなった。

一年後、祖父が亡くなったとの知らせがあった。私は……泣いた。これ以上、涙が出ないのではないかと思うくらいに。その涙を見た母は、たった一度、しかもほんの数時間しか会わなかったのに、どうしてこの子はこんなに泣くのだろうと不思議でならなかったと今、私に言う。

今でもその答えは、はっきりと出せない。血がつながっているからだと言えはそれまでだが、血のつながり以上に、私を見て目にいっぱい涙をためたあの祖父の姿に、私自身、心を動かされる何かがあったのではないかと思う。

とても寂しい内容の文章になつてしまったが、今一度、考えてみてほしい。

『若人の』

本質質を――

(森泉荘 新任寮母)

# ☆ 特集 ☆

## サマー・ソニエティア ・ボランティア

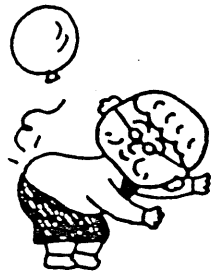
※本年も県社会福祉協議会の主催で実施され、当森泉荘へも三名の方が来荘、八月一日から四日までの四泊五日をお年寄りと共に、宿泊しながらすごされました。三名のうち二名の方は昨年も参加されました。以下三名の方の感想文をご紹介します。 ※

### 北林 美貴子

【ひと夏の体験をあなたに】  
というポスターのキャッチフレーズに、ふと目が止まり、体験させていただきました。三泊四日間、寮母さんの仕事。私が想像してたのとは、大きく食い違っていました。まず一言、大変ですね。てっきり入所者の世話だけだと思ってたら、掃除から洗濯から、仕事の範囲のひろいこと。食事介助も、おむつ交換も、ボランティア経験のない私には初めてでしたから、良い経験になりました。たったおむつ一枚変えるだけ、なんて考える

のは大きな間違いで、動けない人達が多いので一仕事なんです。でも「ありがとう」と言われると、いくら疲れていてもどうってひとないって気になるんです。食事介助をして、普段より多く食べてくれた時は嬉しかったです。福祉関係、医療系等の仕事は喜んでもらえることが一番嬉しいし、その仕事を選らんで良かったと思っただと思えます。

りません。ここ「森泉荘」は、静かで景色も良く環境に恵まれた場所に位置していて、又、施設も大きく美しく、明るいです。同様に入居者も、明るいです。ボランティアに来た私達を笑顔で迎えてくれて、不安はどこへやら。お孫さんの話もしてくれました。九〇歳とは見えない、食事一人でも元気な方、まるで歩いている方。とにかく、元気でいい方。なかには、手が不自由で食事の時間を必要とする方もいましたが、自分で食べようとしているんです。思わず、手を貸したくなるんですが、世話をしなればいってものではないんです。自分で出来ることは自分



でやらなければ、その人の為になりませんから。頑張ってくださいと感じました。又、実際に車椅子、ストレッチャーに乗って体験させていただきましたが、その不安なこと。利用者の気持ちを知ることが出来て良かったです。車椅子では、知識に不十分な所もあって、勉強になりました。現在、私は週二回病院実習を行っていますが、病院と施設とは全然違うんです。個人的な世話はしませんから、良い体験になったと思います。この夏休みが終わると、又、病院実習が始まりますが、この三泊四日の体験を実際に生かしていきたいです。そして私の将来の夢に向かって頑張りたいと思います。夏休みの三泊四日間、自分自身の為にプラスになりました。職員、入居者の皆さん、四日間お世話になりました。まだまだ、暑い毎日が続くと思いますが、夏バテには気をつけて、頑張ってください。本当に、ありがとうございます。

(森吉町：大館桂高校三年)

# 柴森 葉子

「何をどうすればいいのかわからないのか」「話しかけられた時はどう答えた方がいいのか」を、迷っていたのは昨年の私。今年は昨年のように、皆さんにご迷惑をかけないように、頑張るつもりでボランティアに参加しました。

事前会の時に、入所者の方も職員の方もだいたい入れ変わっているのを見ていたのですが、どのように森泉荘が変わったのかわからなくて見たくて、八月一日が待ちどろしくかったです。

ボランティア活動の四日間が始まりました。緊張、不安そして、「私のことを覚えてくれているかな？」というちょっとした期待で、前日はなかなか寝つけませんでした。が、来荘して入所者の皆さんの姿を見た時、寝不足もどこかへ吹き飛んでしまいました。一年ぶりの来荘なのに、皆さんは私達をまるでずっと一緒にいた人のように受け入れてくれました。中には「去年もきましたよね。」とびっくりする人もいて、とてもうれし

かったです。「がんばってーっ！」と気合いが入りましたが、やはり最初のうちは慣重に、寮母さんの仕事をマネしながら、徐々に慣れるようになりました。昨年の、そして一月からの、病院での実習を生かせるたいなと思いつつ、あせったりしました。正直いって、病院実習よりもきつかったです！

病院では食事の介助は付き添いの人がやってくれますし、車椅子で患者さんを送る時は、患者さんの方が慣れているのでそれほど苦労はしません。それが、ここでは全て体験しなければいけないので、胃が痛む思いでした。が、食事介助の時は入所者の人が一生懸命に飲みこんでくれましたし、「少し冷ましてから。」とか、「量、減らしてけれ。」と言ってくれるので、大変たすかりました。食事の後に、「娘さんに食べさせてもらったら、おいしくたべられたの、け。」と言ってもらえたのが、



とても励みになりました。テレビや学校の話しをしながら居室をまわりましたが、皆さんお孫さんや家族の人が面会に来るのを待っているようなことを言っている、さびしそうに笑っていました。これからお盆がきますが、家に帰られず、面会に来る人もいない、という人がいるかもしれないと思うと、何だか私までさびしくなります。どうにかして入所者全員が家族の人に会えるようにしてほしいものでしょ

うか・・・？（家族のいない方がいるかもしれませんが・・・）あと、入所者の方と会話する時間をもっとあればいいのにナ、とも思いました。

今年はストレッチャャーや車椅子に乗ってみることができましたが、どちらもうまく動かせません。実際に乗ってみるとちょっと揺れがとてつもなく恐かったです。そこを覚えて操作するよう、心がけなければいけないと思いました。病院実習に生かしたいです。

結局、今年もまた迷惑をかけてしまいました。優しく指導してくださった職員の皆さん、おいしい食事をつくってくださった皆さん、そして笑顔で私の話になづき、励ましてくれた入所者の皆さん。・・・ありがとうございます。皆さんの優しさ、あたたかさは決して忘れたいと思います。いつかきくと、こちらにヒョッコリと出没するでしょう。その時まで、私のことを覚えていてほしいナ。

本当に、本当にありがとうございます！

（阿仁町：大館桂高校三年）

二度目のボランティア。去年は初めてで、何も分からなまま四日間が過ぎてしまいました。とまどう毎日で皆さんにはすごく迷惑かけたと思います。あれから自分の何もできないのが悔やまれて来年も絶対行くこうと思ひ、また来た来たわけなのですが、去年、部活でばかりやって右足の膝蓋骨を脱臼して、しばらくの間、障害者生活をしました。今でも、おもいつきり走ったり運動することはできない日常なので、この仕事が



## 松橋 美香子

勤まるかとても心配でした。実際やってみて、やっぱりきつかったけど足の痛みも忘れるくらい必死に物事に打ち込むことができました。寮母さんも、入居者の皆さんも親切で楽しく一日一日を過ごすことができ、将来、福祉関係の仕事をしように思っている。私自身の大きな励みになりました。気をつかっていただけで、本当にありがとうございました。未熟な私に腹立ったのではと、とても心配ですが、今回の体験実習はすごくためになりました。ストレッチャーに乗った時すごく怖くて不安でした。一人でその場所にとり残された時は急に寂しくなったり、入浴の時ゆっくり下になったり上があったりしているのに酔ったり、少しは入居者の皆さんの気持ちが分かったつもりですけど・・・。寮母さんがスムーズに入浴させていたのを軽く見過ごして、実際やってみてすごく大変であったのには、悲しくなりました。本当に何もできなかったのです。おむつ変え、

食事の介助、入居者とのふれあい、この仕事の日常ですよね。私はどれも満足にできませんでした。それでよく「将来このような仕事をしたい」とか思っているんだから情けないですよ。これからもっと勉強したり、体験を積んだりしてもっと大人にならなくては。

皆さん。四日間どうもありがとうございました。良い思い出の一つとして・・・。  
(合川町・鷹巣高校三年)



## 『森泉荘日記』

昭和六年

※主な行事を紹介します※

- 《七月 七日》七夕。短冊に願い事を。
- 《七月一日》阿仁町菖蒲園ドライブ
- 《八月 一日》参加一六名。生憎の雨。
- 《八月 一日》サマーショー トボランティア。
- 《八月 一日》女子高生三名。
- 《八月 一日》盆帰省開始。
- 《八月 二五日》盆供養。
- 《八月 二五日》花火大会。
- 《九月 一日》敬老式。
- 《九月 五日》介護講習会。
- 《九月 二九日》屋外昼食会。
- 《一〇月 二〇日》森吉町町長選挙不在者投票実施。
- 《十一月 九日》映画会。
- 《十一月 九日》人形劇に人気。
- 《十一月 二一日》避難訓練。
- 《十一月 二七日》第一四回ゲーム大会。

※その他、誕生会、大相撲星取り大会、などを実施し、一月からは、鍋料理も始まりました。また、在宅の方を対象とした入浴、給食サービスも月二回実施しました。

厚く御礼申し上げます

昭和六三年七月

昭和六三年一月

奉仕・

慰問

七月三日 前田婦人会  
八月二日 美容師組合  
阿仁部  
九月三日 民謡研究会

九月二〇日 前田保育所  
一〇月二七日 前田小学校  
一年生

善意

▽▽▽▽▽  
工藤 東  
新林 テツエ・善子  
藤谷 利三  
前田 婦人会  
伊藤 鉄治

▽▽▽▽▽  
森川 順治  
篠内 史子  
佐藤 クニ  
日本たばこ産業(株)大館  
佐藤 通子  
秋元 ミツ  
佐藤アキエ(マッサージ)  
岸 シエ

【敬称は略させて  
いただきました。】

## 正月の帰省について

12月ともなりますと、正月帰省のことが話題にのぼるようになります。この「森泉荘だより」とともに、「帰省確認葉書」を同封しております。お手数でも12月12日(月)まで必要事項をご記入のうえ、森泉荘までご返送ください。

正月期間中に都合の悪い方は期間外でも施設としては対応できますので、ご家庭でご家族と過ごされる時間を持っていただきたいものだと考えております。

葉書の書き方ですが、午前中でしたら昼食前というようにお書きください。

帰省・帰荘にあたっては、できるだけ、午前9時から午後5時30分までの間においでください。どうしてもこれ以外の時間になる場合は、葉書の「備考」欄に書くか電話でご連絡ください。

☎ 0185-75-3406

## ★ 新入所者紹介 ★

七月〜十一月末までの新しい仲間をご紹介します。

北林 徳治さん(六八)  
阿仁町  
福士 リエさん(八七)  
鷹巣町  
工藤 幸一さん(七五)  
森吉町  
以上三名。

## ◇ 編集後記 ◇

▽第四号をお送り致します。  
▽鍋物の恋しい季節になりました。森泉荘でも、三月までの予定で鍋料理(ホールにガスコンロを用意して鍋をかこむ)スタートしました。皆さん、フウフウ言いながら食べています。(もつとも猫舌の人もいます)  
▽屋外昼食会、映画会と新しく実施しましたが、ご家族の面会にはかえません。どうか、おヒマを見つけてはご来荘下さい。  
▽ご意見、ご感想、その他お叱りなど、お待ちしております。